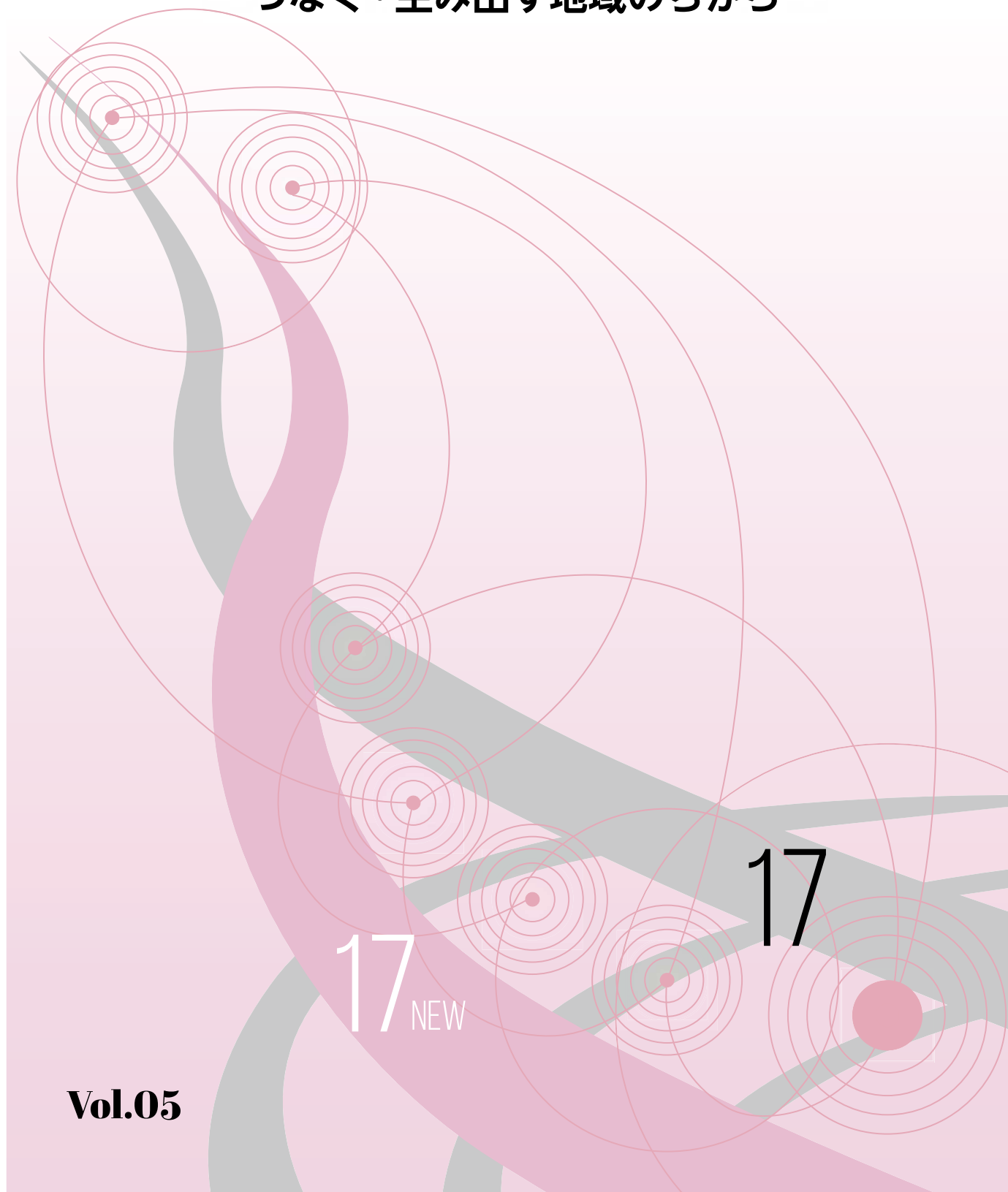


新中山道

～つなぐ・生み出す地域のちから～



17 NEW

17

Vol.05

豊かな自然と利便性が共存するTOKAINAKA

豊かな自然に恵まれた北本市
道路ネットワークの利便性と
緑が共存した快適で活力ある
まちづくりを目指しています



北本市長
三宮 幸雄氏

豊かな資源を活かしたまちづくり

北本市は1971年に市制施行し、2021年に50周年を迎えました。埼玉県のほぼ中央に位置し、都心から45km圏内にありながら、美しい里山や雑木林が暮らしと隣り合う、穏やかな緑のグラデーションを描くまちです。

2022年には市の昆虫「ヘイケボタル」を観察できる北本自然観察公園がウエザーニューズの「全国のホタル名所ランキング」で一位を獲得。毎年6月中旬から8月下旬の観察シーズンは多くの方が来場し、豊かな自然環境でホタルの幻想的な光を楽しんでいます。

就任以来、私が一貫して取り組み続けているのは「北本市らしさ」を活かしたまちづくりです。様々な生物が生息する豊かな自然や、しっかりとした大宮台地の地盤、また、関東最大級の大きさを誇り、縄文時代の世界観を新たにする「デノタメ遺跡」など、多くの可能性を秘めた北本市の資産を存分に活かしたまちづくりを進めていきたいと考えております。

北本市が2020年度から実施している「屋外の仮設マーケット事業」が2022年、全国広報コンクールの最高賞、内閣総理大臣賞を受賞しました。これは、マーケットに来た方が街

の魅力を知ることができ、創業支援の場や地域で活動する人たちが繋がれる場であり、人口減少の解決につながるものと考え、「& green market」と「マーケットの学校」を開催したものです。参加した一人一人がマーケットに居場所ややり甲斐を見出し、「自分事」として北本市の魅力を発信していったことが評価の決め手になったと自負しております。

このような取り組みを行ったこともあり、北本市の人口も2021年度は17年ぶりに社会増になりました。移住・定住を促進するためにも、まずは住んでいる人が北本を好きになっていただくことが、まちの活力につながると考えております。

市民に親しまれるグリコふれあい通り

北本市には、北本駅を中心に比較的コンパクト

トな市街地が形成されています。今後、高齢化が進む中で、いつまでも暮らし続ける市街地を形成するためには、徒歩圏に日常の買い物ができる店舗等を誘致することや、鉄道駅や路線バス等による公共交通の利便性の高い市街地形成が必要です。また、緑に囲まれた健康な文化都市の特性を活かしながら、高齢者や障がい者、子育て世代を含むすべての市民が利用しやすい道路づくり、誰もが安全で快適に利用できる道路空間の改善が求められています。

まちの活力を高めていくためには、新たな企業誘致のための産業用地の創出や、交流人口拡大のための取り組みが必要です。圏央道の整備による交通アクセス向上にともない、北本市が積極的に企業誘致を進めた結果、2011年には北本の名前を冠した江崎グリコの工場「北本ファクトリー」が完成。翌年から本格稼働し、見学施設「グリコピア・イースト」もオープンし、土日の予約は数か月先まで埋まっているほどの盛況となっています。また、関東グリコとのネーミングライツパートナー契約により、工場前の道路を「グリコふれあい通り」と命名し、市民の皆さまにも親しまれています。

2018年には、地域の一層の活性化と市民サービスの向上をはかるため、関東グリコと「包

括連携協定」を結びました。それぞれが持つ資源を有効活用し、観光、産業、学校教育、市民生活などの分野で相互に連携・協力して、まちづくりを進めています。

また、北本市にポテンシャルを見出した、物流倉庫を営むGLP北本事業所も2021年にオープンしました。これは道路整備による利便性が高く評価された結果であり、今後さらなる道路ネットワークの充実が期待されています。

交通のハブとなる要のまち、北本

近年は圏央道の開通により、神奈川や千葉方面への交通アクセスが向上。南北の交通軸となる上尾道路も事業化され、広域交通の利便性を活かした企業進出による地域経済の発展が期待されています。北本はまさに交通のハブといえる結節点にあり、この圏央道と関東道、東北道に囲まれたエリアは近年では「ゴールデン・トライアングル」と言われ、開発の好立地になっています。

中でも上尾道路は国道17号の混雑緩和、圏央道と連携したネットワークづくり、北本市と他地域を結ぶ広域的幹線道路の充実のため、1日も早い整備が待たれるところです。自然災害時

に道路の不通や建物の崩壊などで機能不全に陥らないためにも、交通網を多重化しておくことは非常に重要です。

北本市では、これからも上尾道路や圏央道周辺のサービス機能や交流人口拡大のための新たな土地利用や交流拠点づくりを推進します。里山や雑木林などの豊かな自然や歴史遺産に恵まれた魅力あふれるまちに、道路整備によって新たな産業立地を促進することで、「快適なくらしと活力あるまち 北本」の実現を目指してまいります。



北本市役所芝生広場で開催された &green market

緑豊かな街に情報や人の交流が生まれる

地元商工業者の応援団として
経営の支援を行う北本市商工会
自然環境も大事にしながら
道路の恩恵を生かした
街づくりに尽力しています



北本市商工会 会長
内田 千美氏

地域の商工業者の心強い応援団

北本市商工会は昭和36年、北本市内の商工業者の発展を推進することを使命として設立された公益法人です。設立当初は約480の事業所でスタートしましたが、昭和40年頃からは埼玉県が県南から工業開発を推し進め、人口も急増。それにともなつて、首都圏40km圏内に位置する北本市の産業規模も拡大し、現在の会員数は約900となっております。商工会というのは何をするとどこかご存じない方もいらっしゃるかと思います。一言でいうと、市内の商工業者が安心して経営でき、地域とともに発展するようなお手伝いをするところです。例えば資金が必要な事業所に国や県の制度融資を斡旋したり、税務や経理、法律、社会保険などのご相談を受けたり。経営セミナーや工場視察研修会などの行事も開催しています。

最近ではキャッシュレス時代になり、現金取引が中心だった地元の商店街にも対応が求められています。そこで3つの事業者と連携し、地元

商店のデジタル化を進めるお手伝いも進めています。今後5Gが一般的になれば、さまざまな可能性が広がっていくと思うので、随時フォローしながら、街の活性化につなげていければと考えています。

ここ数年は新型コロナウイルスの問題もあり、経営相談の数が例年の3〜4倍に増えました。中には家族経営で、なかなか帳簿もちゃんとしてくれないという方が相談に来られることもありますが、できる限り地域の商工業者に寄り添って、問題解決のお手伝いができるよう、一生懸命努めています。

対商工業者だけでなく、北本市民の皆さんがふれあいを深めて、より快適な暮らしを送れるよう、コミュニケーションの場づくりも行っています。例えばコロナ禍の中でも元氣を出そうというところで、医療従事者への感謝もこめて、青年部が3年連続で駅前のイルミネーションを行っています。自分たちで脚立を立てて、木に飾りつけもして、まさに手作りの企画ですが、北本駅前が華やかになって、気持ちも明るくなつたと好評をいただいています。

人の交流が価値ある情報を生む

幸いなことに北本市では新しく事業を起こす企業も増えていきます。大規模な工業団地というよりは、IT関連などの小さな対事業所サービス



産業まつり

業が4割近くを占めています。ここ数年で2軒のホテルもオープンし、地元経済の活性化にもつながっています。

今後は北本市の立地条件に合った研究開発型の企業の誘致なども行っていきたいと考えています。北本市には日本トップクラスの第一三共製薬の研究所もあり、関連する試験研究機関も立地しやすいと思うので、市の方にも用地確保について働きかけているところです。

試験研究機関が立地する要件としては、まず良好な生活環境と共に、都心への利便性が重要です。やはり生の情報というものはリモートだけでは得られない。2次、3次情報があふれている社会だからこそ、直接会って、フェイストゥフェイスで生まれる情報が最も価値があると思います。アクセスが向上すれば、人の交流によって、一番ホットな価値のある情報が動く。そのためにも、道路の役割は大きく、街づくりには欠かせない大きなインフラです。

自然と道路が共存する街づくり

北本市の特徴は、自然豊かな地域の中に住宅と商業施設がバランスよく点在しているところ。緑の多い環境に恵まれた北本市の特徴を

生かした街づくり、そこに知恵や情報、リアルな人の交流を実現させるための道路、両方があってこそ、地域は活性化すると考えています。

現在建設が進んでいる国道17号上尾道路や新大宮上尾道路のもたらす恩恵を地元で十二分に活用しない手はありません。道路周辺の北本自然観察公園内の埼玉県自然学習センターでは、アウトドアブランドのモンベルと組んで、自然環境教育の体験ガイドツアーなども始まりました。

まず都市計画が先行して、道路を作るとするのが本来のあり方ですが、実際は道路ができることによって、それに合わせて街づくりしていくというのが現状です。新しい道路ができることによるメリットを最大限に活用するために、どのようなように土地を利用し、開発を進めていくか、町をあげて考えていく必要があります。

以前は騒音公害などの問題もありましたが、最近は環境に配慮した道路整備を行っているのが、地元にとってマイナスの面はほとんどなく、逆に大きな恩恵があります。それをうまく活用し、自然を大事にしながら、限られた土地を有効利用し、北本市全体の付加価値を上げていく。そんなお手伝いを北本市商工会も市民の皆様と一緒にやって、実現していければと考えています。

世界一の夢の実現に向けて地域とともに歩む

2022年創設のリーグワン初代チャンピオンに輝いた埼玉。パナソニックワイルドナイツ。2019年のワールドカップ会場となった熊谷ラグビー場に本拠地を移転し、地域に根差したチームとして、「ラグビータウン熊谷」の発展に貢献しています。



チーム名の由来は「野武士」

埼玉パナソニックワイルドナイツは1960年、東京三洋電機のラグビー部として創部しました。1967年に関東社会人リーグ1部に初昇格、1988年発足の東日本社会人リーグにも初年度から参加し、両リーグを通して歴代最多の優勝17回を誇っています。2003年にはトップリーグが発足し、優勝5回、2022年に発足したリーグワンでも初代王者に輝きました。

2003年のトップリーグ創設にあたり、チーム名やロゴを作ることになりました。その愚直一徹なブレースタイルから「野武士」の異名をとっていたこともあり、「ワイルドナイツ」というチーム名に決まりました。何人をも圧倒する肉体的強さと、何があっても砕けぬ精神的強さを持ち、夢の実現に挑み続けるという願いが込められています。

当時、リーグ決勝で10回以上敗れて、無冠の王者と呼ばれていたこともあり、日本一を目指そうということで、ロゴは日の丸をイメージした赤い鎧兜に決まりました。

夢は日本一から世界一へ

その後、2011年に三洋電機がパナソニックの完全子会社となり、チーム名も「パナソニックワイルドナイツ」に変更されました。私は三洋電機時代の最後の監督でしたが、最後の年に念願の優勝を果たして日本一になり、今度は世界を目指そうということで、ロゴの色も地球の青、そしてパナソニックのコーポレートカラーでもある青に変更されました。

2019年には日本でラグビーのワールドカップが開催され、ベスト8になったこともあり、ラグビー人気は年々高まっています。



パナソニック スポーツ (株)
埼玉パナソニックワイルドナイツ
ゼネラルマネージャー
飯島 均氏

現在、我がチームからも稲垣啓太をはじめ、7名の選手が日本代表として活躍しています。先日のニュージールランド・オールブラックス戦では僅差で敗れましたが、トップの背中は見えており、日本が世界一になる可能性も十分あります。英国発祥の団体競技では、ラグビーが世界一実現が可能な唯一のスポーツだと思っています。

地域と共に羽ばたく ワールドナイツ

従来のトップリーグと新しいリーグワンの大きな違いは、企業スポーツから地域に根差したスポーツへと変わったことです。そこで一番大切なのはホストスタジアムを持つということ。2019年のワールドカップの会場となった埼玉県の熊谷ラグビー場は弊社から県をまたいで約15kmの距離にあり、日本のラグビー界を盛り上げるためにも、ここへ移転してこないかというお話をいただきました。それまでは群馬県太田市に本拠地と練習場を置いていたので、いろいろ悩みましたが、何よりも世界のトップを目指すためのホストスタジアムを確保できるという魅力にひかれ、移転を決めました。

2021年8月に熊谷スポーツ文化公園に

本拠地を移し、ホストスタジアムは同熊谷ラグビー場となりました。ここにはラグビーの専用グラウンドだけで5面、補助グラウンドや練習場も含めると8面もあり、世界でも有数のラグビー施設となっています。地域に根差したチームということで、名称も「埼玉バナソニックワールドナイツ」に変更されました。これだけの施設を生かし、コミュニティの核として地域の発展につなげるには、魅力的なコンテンツ作りが大切です。ラグビーの試合自体は年間10試合くらいですが、我々は練習も全部公開するし、リハビリの様子も見せます。子供たちが2m以上ある選手を間近で見たら、5mくらいに見えますよ。彼らが激しくぶつかり合って練習する姿を見てもらうことで、バーチャルにはない、生の感動を与えることができる。大勢のファンが見ていると、選手も練習に気合が入るし、地域の皆様に育てていただければと願っています。

熊谷ラグビー場の唯一の問題点は、交通の便がよくないこと。JRの熊谷駅からは約4kmと、歩くにはちょっと遠い距離です。車でも熊谷は圏央道と北関東自動車道、東北道、関越道のちょうど真ん中くらいにあって、どこから来るにも小一時間ほどかかります。付近を走る国道17号（現道）の渋滞も深刻です。

今回の本拠地移転に際しては、現在進められている上尾道路や新大宮上尾道路の整備も視野に入れて決めました。現状、与野までつながっている首都高速道路が圏央道までつながれば、東からも西からも、多くの方が熊谷までアクセスしやすくなります。人間の血管と同じで、幹線道路は経済の大動脈です。日本一から世界一へ、我々の大きな夢を実現するためにも、一日も早く道路整備が進み、皆様が気軽に、便利に熊谷ラグビー場へ足を運んで、生の感動を分かち合っていたいただければと願っています。



リーグワン初代チャンピオンに輝いた埼玉バナソニックワールドナイツ

500万人の食生活を支える誇りと責任

食品物流のパイオニアとして
500万人の食生活を支えるアサヒロジステイクス。
道路整備による県央地域の経済発展に期待を寄せています。



執行役員
共配物流本部長
秋吉 弘文氏



営業企画グループ
グループ長
阿部 龍太郎氏



営業企画グループ
ブランド戦略担当
マネジャー
朝日 奈緒美氏

原乳の輸送がチルド物流の原点

朝日 当社は昭和20年、現社長の祖父にあたる横塚元吉が埼玉県嵐山町で陸軍の払い下げトラック1台で創業しました。地元の酪農家から原乳を集めて運ぶ仕事でしたが、24時間365日温度管理をしながら輸送を行ってきたノウハウは、現在の事業の要であるチルド物流にも受け継がれています。

その後事業拡大し、現在はトラック約1500台、社員約6500名を有する食品物流企業に成長させていただくことができました。毎日19800箇所を超える物流拠点や店舗へ食品の供給を行い、約500万人の食生活を担っています。スーパーやコンビニ、レストラン、居酒屋などへの供給業務が中心です。

阿部 当社最大の強みは、センター運営から

トラック運行まで一括で行う自社オペレーションです。自分たちの倉庫で仕分けした商品を自分たちのトラックで迅速にお客様に届けるという、包括的なサービスを提供しています。

昨年からは、輸出入貨物の取り扱いもスタートしました。通常は輸出入業者が間に入って通関などの手続きをし、物流業者になくという形が多いのですが、それだとお客様にとっては時間も手間も発生します。当社では輸出入業者との協力体制の構築により、窓口をひとつにして、通関手続き、流通加工、保管、配送と幅広く手配・対応することを可能としています。

全国に広がる共配ネットワーク

秋吉 これまで関東を中心に物流網を拡充してきましたが、東日本大震災以来、東北の物流を助けてほしいというご依頼をたくさんいただくようになりました。当時は私自身もいかに現地に入りし、津波の惨状も目の当たりにしてきたので、東北への思いは強く持っています。2020年には東北初となる念願

の仙台共配センター、2022年には盛岡共配センターを開設し、東日本をカバーする共配ネットワークを確立しました。

阿部 現在は拠点から拠点へと、まとめて大量に荷物を輸送することで、運送コストを削減する幹線輸送もスタートし、専用のトラックもできました。キャビンを詰めてコンテナを長くし、積めるパレットを多くしたり、従来は奥に冷凍、手前にチルドという固定の配置だったのが、冷凍、チルドどちらも自由に置けるようになり、積み込み時間の削減にもつながりました。

朝日 創業当時、運送業は社会的地位の低い職業でしたが、「運送業を誰もが憧れる立派な職業にしたい」という創業者の強い思いを受け継ぐべく、「CS \parallel ES \parallel CS」という経営理念が誕生しました。これはCS（顧客満足度）の向上とES（社員満足度）の向上、CS（会社の充実）はイコールである、つまり、自社に満足感を持っている社員こそが、お客様に満足感を提供でき、それが会社の発展にもつながるという意味です。そんな中、当社では女性ドライバーの比率を10%にするという目標を掲げ、女性が快適に働ける環境を提供するためのクローバープロジェクトを立ち上げました。

2020年には女性専用車両を導入。後ろの荷台に梯子をつけたり、扉のロックを少ない力でも留められる機能をつけたりと、女性が扱いやすい仕様になっています。また、女性の体型に合わせた女性専用ユニフォームも作り、男性の管理者を通さずに自分で直接オンラインで発注できるようになっています。

道路整備が生むビジネスチャンス

秋吉 物流業では定時性が非常に重要なので、各拠点がさまざまな形で連携しています。同じ方面へ届ける商品を様々な拠点から集約し1台の車両にまとめることで配送の効率化をはかるなど、拠点間配送をうまく活用しています。

以前は千葉と埼玉、千葉と茨城など近距離間の連携だけでしたが、最近は埼玉や千葉から神奈川まで荷物を運ぶなど、関東一円、どのセンターともネットワークがつながっています。これは高速道路網が整備されたおかげで実現したことです。以前なら一度高速を降りて、一般道を走らなければならなかった区間も、一度も高速を降りることなく、迅速に荷物を運べるようになりました。

阿部 運送業者にとって、道路ネットワーク

はなくてはならない重要なインフラです。既に開通した首都圏中央連絡自動車道（圏央道）をはじめ、今後、国道17号上尾道路（Ⅱ期）、新大宮上尾道路が整備されることで、当社にも大きなビジネスチャンスが生まれます。

現在、北本市、桶川市などの県央地域は交通の便がよくないこともあり、我々のクライアントであるチェーン店は出店していないところが多いです。しかし、今後、道路の整備が進むことで、利便性もよくなり、お店を構えたり工場を誘致する企業も増えてくるのではないのでしょうか。当社の拠点作りの戦略にも道路整備は重要な要素になってきます。一日も早く整備が進み、地域全体の経済発展につながることを期待しています。



2022年5月開設_盛岡共配センター

お菓子が紡ぐ全国への道

「うまい、うますぎる」というTVCMで県民に親しまれてきた十萬石まんじゅう行田の栄枯盛衰と共に70年歩んできた老舗は今後の町と人流をどうみているのか？
変化のキーワードとなる観光や道路を中心にさまざまなお話しを伺った



外観

こだわりの材料と変わらぬ味

お菓子はおろか配給の砂糖すら満足に得られなかった戦時中。戦後も1952年になってようやく砂糖の統制が解かれ、お菓子を自由にする時代が到来します。そんな時、行田で生み出されたのが「十萬石まんじゅう」でした。敗戦から這い上がるには本物しかない、と先代がこだわり抜いて創り上げた味は創業以来70年、変わることはありません。

私達は希少価値の高い国産つくね芋を毎朝すりおろし、挽き立ての新潟県産コシヒカリの粉と合わせて薯蕷（じゅうご）皮を作っています。そして十勝産エリート小豆と純度の高い白ザラメ糖でこしあんを作ります。経験に裏打ちされた選択眼とこだわりの技術こそが、本物の味を与えてくれるのです。

創業以来変わらずに貫いているのは「美味しいお菓子をお客さまに食べていただきたい

い」という気持ちです。創業後すぐに洋菓子部門にも進出し、熊谷を皮切りに多店舗経営に取り組み、現在では県内に37店舗を数えるようになりましたが、これも「より多くの方に」お菓子をお届けするためです。

棟方志功先生が「うまい、うますぎる」と唸り、1枚の絵にしてください、という話はよく知られていますが、その際、饅頭ではなく「饅」頭とお書きになりました。これには「饅幕のように全国に知れわたってほしい」という想いが込められていたそうです。今後は通販の力を借りながら、全国津々浦々にお届けしていきたい、と考えております。

変わりゆく地域と新たな戦略

行田に本拠地を置きながら商売を続けてきた私共にとって将来への不安もあります。実は明治まで、行田は全国の足袋の7割を生産



十万石まんじゅう _ ギフト大賞受賞

する一大産地として知られていました。足袋造りの老舗が活躍する小説『陸王』でも行田が舞台。「のぼうの城」で知られる忍城を見上げながら、江戸時代の下級武士が内職として行ったのが始まりと言われています。しかし靴下の普及と共に足袋作りは衰退。もともと街道沿いではなく、中山道や国道17号、そして高崎線からも離れていた行田は中核産業を失って人の流れや地域人口

やそのものが少なくなっていくのです。

そんな中、熊谷バイパスの開通とそれに接続する上尾道路、そして首都高から続く新大宮上尾道路建設のニュースは本当に嬉しいものでした。市内の中心近くを通る幹線道路の完成とそこに至るルートの整備。これが実現すれば本当に、行田市民として喉から手が出るほど欲しかった大動脈が手に入ります。

もちろん、私達もただ手をこまねいて待っているだけではありません。毎月10日を十万石お菓子の日として旬のお菓子を揃えたメニューを用意したり、『陸王』や『翔んで埼玉』といった映像作品と、あるいはラグビーチーム「埼玉パナソニックワイルドナイツ」とのコラボレーションなどを通じてより多くの皆さまに知っていただけるよう、時代に合わせ、日々新たな挑戦を続けています。

行田に再び人の流れを！

2007年に本店の江戸様式の建物が国の登録有形文化財に指定されました。市内には足袋蔵を中心にこのような古い建築物が幾つか残されており、『陸王』のロケ地として使われて以来、蔵のある町として少しずつ認知されるようになってきました。ほかにも蓮池

一面に12万株の花蓮が咲き乱れる「古代蓮の里」や「忍城」、県名の発祥の地と言われる「さきたま古墳群」など、観光名所も点在しており、季節によってはかなりの人が訪れています。これら時間的、距離的な点を線として繋ぐことができれば、行田に人の流れを作ることもできるかも知れません。

私達は、このチャンスを大切にせねばなりません。有用な道路が整備されれば人々の行動が変わります。行動が変われば人の流れが変わります。定住人口増は難しくても、交流人口を増やす、首都圏や県南から、今までより多くの人々に来ていただくことは可能なはずです。

もちろん、優良な原材料を全国から仕入れ、行田工場でお菓子を毎日作り、出来たての味を届けるべく県内全域、さらに群馬県まで配送している私共にとって、上尾道路や新大宮上尾道路の完成は大きなメリットとなります。そしてまた、今後さらに発達する通販の分野で、賞味期間の限られた製品を迅速にお送りする上でも欠かせない存在となるに違いありません。大がかりな工事だけに一朝一夕に進められるものとは思っておりませんが、世代を超え綿々と続けられるこの事業の完成に、私達は大きく期待しております。

地域と共に創る道路 上尾道路・新大宮上尾道路（新中山道）

——地域の発展を目指して——

広域道路ネットワーク整備推進に向けて

埼玉県は、江戸時代に整備された日光街道や中山道など江戸（現在の東京都）を起点とした放射状の道と共に人の流れと地域が形成され、これらが現在の国道4号、17号沿線地域の街並みへと受け継がれています。

また、高度経済成長期以降、東北自動車道や関越自動車道などの県内を南北に走る高速道路が整備されてきました。

一方、県内の東西方向を結ぶ環状道路は、長年国道16号が中心でしたが、東京外かく環状道路（外環道）や首都圏中央連絡自動車道（圏央道）が概成し、県内の骨格幹線道路網が形成されてきました。

特に、圏央道沿いを中心とする地域は産業立地も盛んに進んでおり、本社移転超過（転入－転出）数は全国二位となるなど道路整備が地域の発展に大きな効果をもたらしています。



大宮国道事務所長
あべとしひこ
阿部 俊彦



新大宮上尾道路 宮前IC付近イメージ



本庄道路神流川橋開通式「渡り初め」



本庄道路神流川橋開通式「セレモニー」

県北においては、昨年12月に国道17号本庄道路神流川橋が暫定2車線にて開通しました。

本庄道路は、交通渋滞の緩和、交通事故の減少、緊急車両の通行及び災害物資の輸送等のネットワーク強化を目的とした埼玉県深谷市岡から群馬県高崎市新町までの延長13・1kmのバイパス事業です。

とりわけ、神流川橋架替区間については旧神流川橋の老朽化に伴う防災・震災対策として優先的に工事が進められてきました。

上尾道路や新大宮上尾道路（新中山道）に加えて本庄道路などのバイパス事業がさらに進められることで、埼玉県を南北に結ぶ国道17号の交通渋滞の解消や、沿道環境が改善されるなど広域道路ネットワークがより強固なものになり、沿線地域の発展に寄与することはもとより、頻発する自然災害における緊急避難あるいは緊急支援を担う道路として、効果を発揮することが期待されています。

大宮国道事務所では国道4号、16号、17号において、ドライバーや歩行者の方々が安全で安心して通行できる国道の整備、維持管理に努めるとともに、自治体、地元経済界及び地域の皆様と共に、地域の発展に貢献できる道路ネットワークの構築を目指して、事業を進めてまいります。

地域の皆様と共に

本冊子は、平成31年3月に創刊され、今回で第5号の発行となります。

今後も、地域の皆様との関係を図り、一緒に地域の活性化を考えながら事業を進めていきたいと考えております。

本冊子では、事業の進捗などをお知らせさせて頂きながら、地域の皆様とのコミュニケーションツールとしてお役に立てればと考えております。

また、地域の方々の道路事業に関心を持って頂く一助になれば幸いです。どうぞよろしくお願いします。

Message

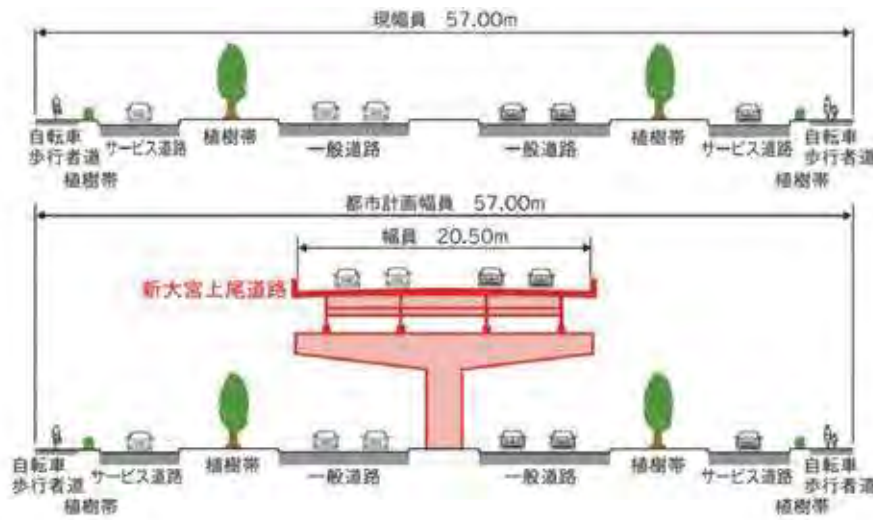
事業進捗紹介①上尾道路

国道17号の渋滞を緩和し、豊かな暮らしをサポート

上尾道路は、国道17号の埼玉上尾市から鴻巣市間の交通混雑の緩和と沿道環境の改善を図るとともに、圏央道（桶川北本IC）に接続し、さいたま新都心へのアクセス強化など幹線道路網の形成を目的とした、延長20・1kmのバイパスです。

そのうち、起点の新大宮バイパスから首都圏中央連絡自動車道（圏央道）桶川北本インターチェンジまでの延長11・0kmをⅠ期区間とし、平成28年4月までに4車線（一部暫定2車線）が開通しました。

首都圏中央連絡自動車道（圏央道）以北の北本市石戸宿から鴻巣市箕田までの延長9・1kmをⅡ期区間とし、事業を進めています。



上尾道路Ⅱ期区間（鴻巣市箕田地区から国道17号熊谷バイパス方面）を望む

JR 高崎線交差部で
橋梁工事などを進めています。



JR 高崎線交差部の橋梁上部工事の状況 (令和4年10月撮影)



JR 高崎線交差部の橋梁上部工事の状況 (令和4年12月撮影)

上尾道路の情報は、こちらでもご覧いただけます。
大宮国道事務所ホームページ
https://www.ktr.mlit.go.jp/oomiya/oomiya_index012.html



圏央道沿線から都心へのアクセス向上し、

地域の産業活動を支援

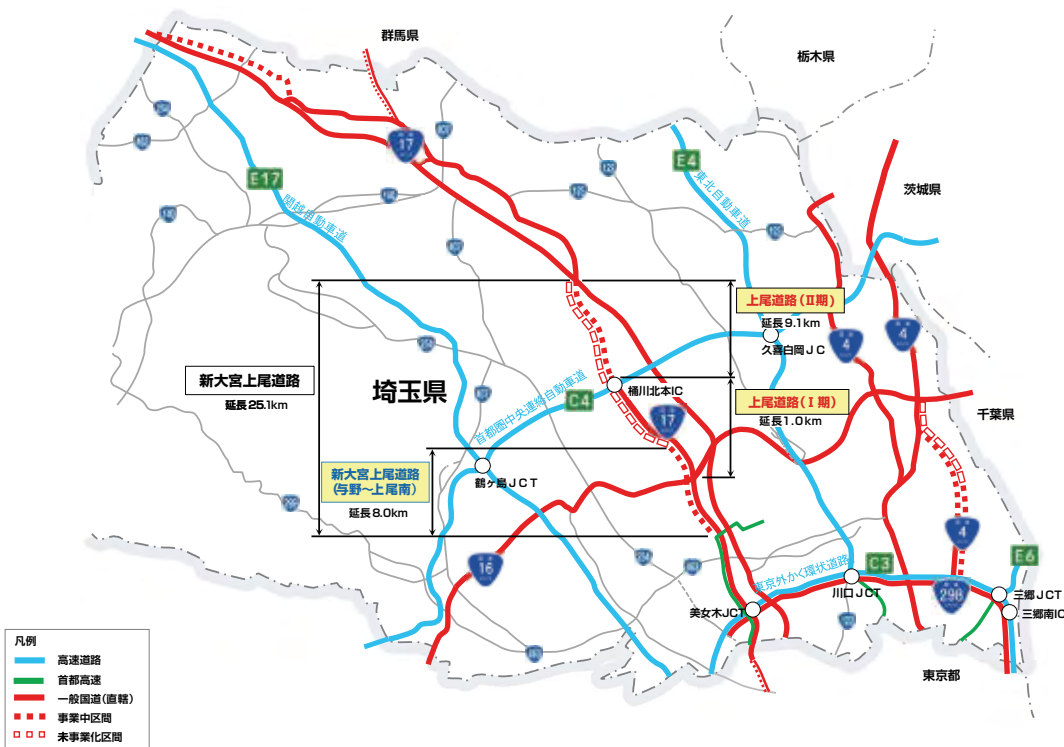
新大宮上尾道路は、埼玉県の中央部を南北に縦断し、東京外かく環状道路（外環道）と首都圏中央連絡自動車道（圏央道）をつなぐ路線であり、国道17号の慢性的な交通渋滞の緩和や埼玉県中央地域の発展などを目的とした、さいたま市中央区円阿弥から鴻巣市箕田までの延長25・1kmの自動車専用道路です。

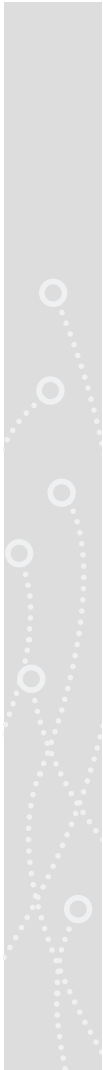
そのうち、平成28年度に、さいたま市中央区円阿弥から上尾市堤崎（与野～上尾南間）の延長約8・0kmが事業化され、平成29年度から、国土交通省関東地方整備局と首都高速道路株式会社の共同で事業を進めており、令和2年3月に都市計画事業の承認及び認可が告示されました。

宮前インターチェンジ付近の 橋梁基礎工事を進めています。

令和3年11月には新大宮上尾道路（与野～上尾南）事業で初めての工事となる、宮前インターチェンジ付近における橋梁基礎工事が契約となりました。

令和4年度においては、調査設計、用地買収及び宮前地区橋梁下部工を実施しています。また、堤崎地区・西新井地区において改良工に着手しました。





宮前インターチェンジ付近



宮前インター付近完成イメージ

新大宮上尾道路の情報は、こちらでもご覧いただけます。
大宮国道事務所ホームページ
https://www.ktr.mlit.go.jp/oomiya/oomiya_index020.html



つながり、結ぶ

TOPICS

高崎市

国道17号本庄道路・新中山道への期待

～新たな神流川橋の開通に寄せて～

高崎市は、群馬県の南西部に位置し、北西端は長野県に、南東端は埼玉県に接しています。東京都心から新幹線で約50分の高崎駅を中心とした都市部と、榛名山を代表とする緑豊かな景観と大自然を有し、活力ある都市と美しい自然環境が融合し、多様性と個性的な文化のある、首都圏と北陸・上信越を結ぶ群馬県の中心都市です。

古くより交通の要衝として発展してきた本市の自動車交通は、中山道の流れを継ぐ国道17号と国道18号を基幹道路とし、道路網の整備が進められてきました。本市内の国道17号は、埼玉県側から神流川を渡った新町地域から始まり、倉賀野を通り、本市中心部に近い烏川で西へ延びる国道18号と分岐し、北は前橋市へと続いています。

現在、国により整備が進められております国道17号本庄道路神流川橋架け替え工区において、群馬・埼玉県境から約五百メートルが本市新町地域内の整備区間です。

新町地域は、中山道の開通により江戸から十一番目の宿場町として街並みが築かれ、明治期の官営新町屑糸紡績所の開設や、鉄道の開通、自衛隊の誘致により、全国から流入す

る人々との交流によって発展してきました。

新町地域の東側を流れる神流川は、戦国時代には関東における大激戦のひとつと数えられる神流川合戦の地で、織田信長の命を受けた滝川一益軍が小田原北条勢と激突したと伝えられている地です。国道17号横に古戦場の跡碑が建てられています。

江戸時代には、中山道の宿場として新町宿が置かれ栄えましたが、神流川は白昼でも道筋がわからず、往来に難渋したため、常夜灯が建てられ、洪水により燈籠が押流された折にも再建され、旅人の安全を見守ってきました。

神流川にコンクリート橋が架設されたのは昭和9年で、88年の時を経て、令和4年12月に暫定2車線で新橋が開通となりました。

これにより本市と都心方面を結ぶ災害に強い安全で安心な道路網が確保されましたが、今後さらに本庄道路や上尾道路の整備が進められることで本市と埼玉県のより一層の交流の増加、道路交通の円滑化、交通安全が図られることに大いに期待しています。



国道17号本庄道路神流川橋開通式にて

つながり、結ぶ

TOPICS

上里町

コンパクトで持続可能なまちづくり

～本庄道路・新中山道の整備とともに～

上里町は埼玉県最北端に位置し、都心部から約85kmの距離にあります。

北部、西部には烏川・神流川の2大川がある沿岸地帯で肥沃な土地に恵まれており、野菜、米、麦、畜産、果樹、花きがバランスよく市場に提供される県内でも有数の富農地帯です。

町の広域交通網は、上里SAに設置されている上里スマートICを通じて東京方面や新潟・長野方面とアクセスできる関越自動車道のほか、国道17号、国道254号の幹線道路が通っています。

上里SA周辺地区では、イベント開催による町民と来訪者との交流や農業・観光振興の推進、上里スマートICのアクセスを活かした工業系土地利用を図るなど、町の中心的な観光拠点の形成を目指しています。

明治期になると、本町では養蚕業が盛んになり、神保原駅が設置されたことをきっかけに駅北口に大規模な製糸工場が立地しました。駅北口には中山道が通り、周辺地区は地域住民の拠点として様々な店舗が立地し賑わいましたが、時代の経過に伴う社会需要の変化により駅周辺の活力が衰退していきました。

このような歴史的背景を踏まえ、現在、まちの活力を生み出すとともに、町全体で進める「コンパクトで持続可能なまちづくり」の実現に向け、神保原駅北口の昔の面影が感じられる魅力あるまちづくりに取り組んでいます。昨年11月には町で初めての取り組みとなる、駅前通りでのマーケットを開催し、町内外から多くの方にご来場いただき大きな賑わいを見せました。

神保原駅から北に伸びる県道神保原停車場線はまちづくりの骨格軸であり、国道17号と接続されていますが、町では駅までのアクセス性の向上や安全性の確保に向け、車道の整備や歩道の新規整備を目指しています。一方で、昨年12月には群馬県と本町を結ぶ本庄道路神流川橋が開通するなど、広域道路網の整備も進められています。

新中山道の整備が進み、本庄道路との連携が図られることで、渋滞緩和や災害時等の緊急輸送路のほか、物流が活性化することに大きな期待が寄せられます。本町としても交通便利性の向上により、ひと・もの・地域が繋がる明るい未来に向けたまちづくりを推進して参ります。



神保原駅北口航空写真



ちいさな駅前を旅するマーケット

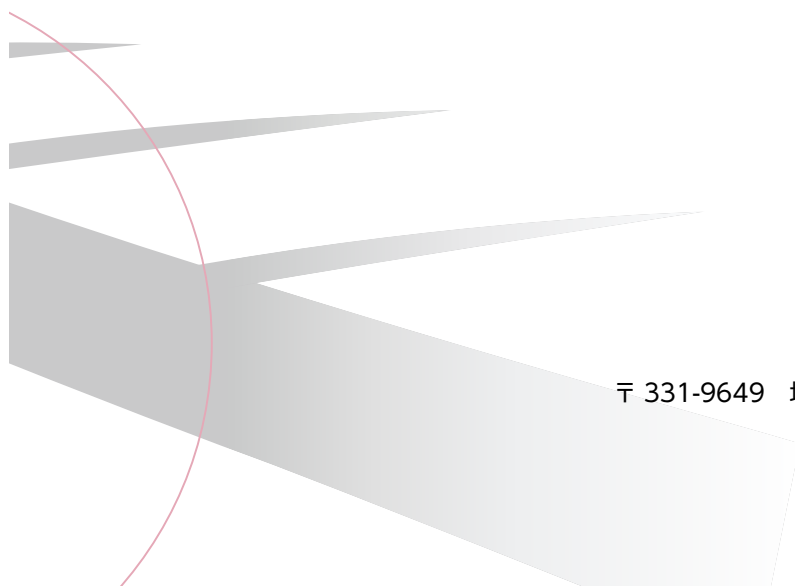


“つながり”が生み出す地域のちから

—— 人、地域には元々持つ、備わっている力がある。それらがつながり面となって広がることでポテンシャルはさらに高まり、未来に向けて新たなちからとなる。

道がつながる、地域と地域がつながる、人がつながる、そしてそれ等が持つちからがつながり、新たな多様な価値を創出し豊かな地域、輝かしい未来を創造することが出来る。様々な分野の知恵、ノウハウ、技術、経験を連携、協働することで高いパフォーマンスが生み出される。

その可能性を示し発信する、「地域と道」が創る冊子 ——



国土交通省 関東地方整備局
大宮国道事務所

〒331-9649 埼玉県さいたま市北区吉野町1丁目435番

TEL.048-669-1205 (計画課)

<https://www.ktr.mlit.go.jp/oomiya/>